

単元構想シート

① 本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

なぜ米や野菜を作ることが続いているのだろうか？

② 単元を貫く問い（単元を通して考えを深めていく「問い」）

どんな収穫祭ができるだろうか？

③ 個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

- ・どんな収穫祭をしたいかな？
- ・収穫祭ってどんな理由でどんな内容をしているのかな？
- ・米作りや野菜作りで私たちはどんなことをしてきたかな？
- ・どんなテーマや内容の収穫祭をすることができるかな？
- ・どうやったら米作りや祭が伝統として続いていくのかな？

単元計画の構想

「いよいよ 収穫祭だ」

- ① どんな収穫祭をしたいのか思い出してみよう。
- ② 日本各地にはどんな収穫祭をしているのか調べてみよう。
- ③ 自分たちの思っていた収穫祭と日本各地の収穫祭を比べてみよう。
- ④ どんな収穫祭にするか考えよう。
- ⑤ 収穫祭の名前を決めよう。
- ⑥ これまでの米作りや野菜作りを曆にして振り返ろう。
- ⑦ だれにどんな内容をどんな方法でどういう意図で行うのかを決めよう。
- ⑧ 収穫祭のテーマとずれたり不足したりしていないか再度確認しよう。
- ⑨ 収穫祭に向けて、準備を進める。
- ⑩ 収穫祭をする。
- ⑪ 収穫祭を終えて、伝統として残すものを振り返る。

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 田原 聖

- 1 日 時 令和4年2月2日(水) 第5校時
2 学年・学級 第5学年1組(男子15名 女子19名) 計34名
3 単元名 あつまれ くまさんの森
4 単元について

(1) 単元観

本単元は、第5学年の総合的な学習の時間の中で学習してきた米作りや野菜作りを通して、食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者の思いや願い、工夫、作物への感謝、地域とのつながりに気付き、それらを伝統として引き継いでいくことの大切さを考える単元である。

米は、日本にとって大切な食文化の一つである。そして、その米を作るために、田んぼを耕し、苗を植え、稲を刈り、脱穀をするなど米になるまで多くの労力と時間を必要としている。そのため、最近では米農家の減少が問題になっている。また、米離れが進み、米の消費量も落ちている。しかし、米をはじめとする農作物を苦勞して収穫した後には、収穫祭など各地で祭があるように、伝統として受け継がれてきているものがある。この学習では、米作りや野菜作りの大変さとともに収穫の喜びを味わう収穫祭をするという追体験することができ、日本の伝統的な食文化や行事の大切さを考えることができる。また、地域とのつながりや作物への感謝があるからこそ、伝統として農業が続いていることに気付くことで、SDGsにおける、ゴール2「飢餓をゼロに」ゴール12「つくる責任 つかう責任」とも関連させながら食や地域の農業について考えられる単元である。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期から「あつまれ くまさんの森」と題して、自分たちで田んぼや畑を作り、稲や野菜を育ててきた。田んぼと畑のグループに分かれ、農業のことやかかしのつくり方、作業のこと、害虫のことなど必要なことを自分たちでテーマを決めて、インターネットや本を使って調べたり、暑い中作業をしたりして、意欲的に学習を進め、収穫をすることができた。また、2学期の学習発表参観日では、これまでの学習を発表するための内容や方法、また構成を自分たちで考え、わかりやすく伝えるために工夫をして発表することができた。

一方で、教科の内容を取り入れて関連づけて考えたり、自ら課題を設定したりして深く探究することは十分にできているとは言えない。

(3) 指導観

指導にあたっては、これまでの米作りや野菜作りを振り返り、当初の目的であった「祭」を開催するために、何ができるかを考えるところから始める。収穫祭としての祭の目的や内容、他の祭について調べていくことで、自分たちの収穫祭でどんなことができるかを考えていきたい。そして「感謝」「伝統」「つながり」を主なテーマとして気付かせていく。その際に、これまでの学習で撮っていた写真や自分たちの振り返りなども使いながら、自分たちが願うような祭を企画していきたい。また、昨年度五年生から引き継いだ米作りから始まり、この1年間の総合的な学習の時間の学習を通して学習してきたことを振り返るための暦を作ることを通して、自分たちも受け継いできたものを四年生へ受け継ぎ、自分たちの学習が代々受け継がれ、伝統になるということに気付かせていきたい。それらの学習を通して、地域とのつながりを学び、伝統となっていくことを学び、作物の収穫への喜びや感謝を学び、日本の伝統的な農業を大切にしていくことへとつなげていきたい。

そして、児童が問いを持ちやすいように、収穫祭への当初の思いと収穫祭を調べて知った時のズレをスタートにしながら、学習を進める。その際、ベン図やクラゲチャートなどの思考ツールを取り入れることで、お互いの意見を出し合い、比較するだけでなく、何度も収穫祭のテーマに照らし合わせながら、考えてきたことを児童自らがよりよいものに精選していけるように、テーマを意識できるように絶えず提示しながら進めていきたい。

5 単元目標

- 収穫祭を調べ、計画、運営することを通して、農業をしている人の思い、作物への感謝、伝統として受け継ぐことの大切さ、地域とのつながりの大切さを自分たちが決めた方法と内容で分かりやすく、表現して伝えていくことができる。

6 本単元で育成を目指す資質・能力及び評価規準

育てようとする資質・能力						
資質・能力の三つの柱		第1・2学年		第3・4学年	第5・6学年	
① 〔知識及び技能〕 課題発見力	分かる・できる力	学びを深める姿	学習対象の特徴やよさに気付くとともに、学習に必要な習慣や技能を身に付け、使うことができる。	身に付けた知識や技を、学習につなげることができる。	身に付けた知識や技を学習につなげ、さらに学びを深めることができる。	
			② 〔思考力、判断力、表現力等〕 情報発信力	表現力	分かりやすく伝える姿	気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどを、多様な方法（言葉、絵、動作、劇化など）で表現し、伝えることができる。
③ 〔学びに向かう力、人間性等〕 自己の生き方を考える	思いやり	向上心	何度でもあきらめずにチャレンジする姿	意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしていることとする。	分かったことを、自分の生活の中で実践し、より良い自分になることとする。	学んだことを進んで生かし、自分の生き方を考え、夢や希望をもつこととする。
		思いやり	優しく接する姿	人と関わることのよさや楽しさが分かり、進んで触れ合い交流しようとする。	様々な人との交流を通して、多様なものの考え方や生き方があることに気付き、尊重しようとする。	様々な人との交流を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重しようとする。

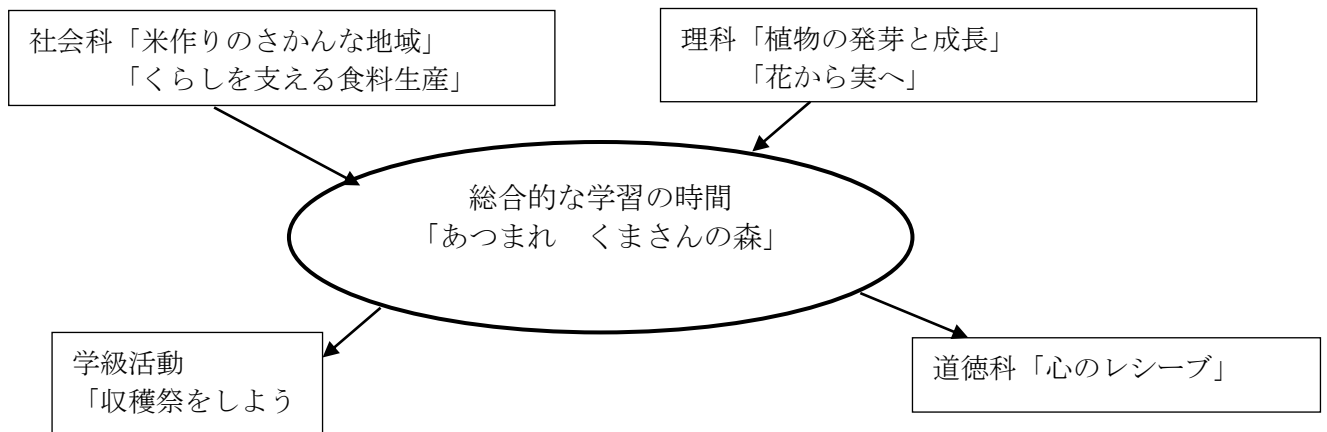
単元の 評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	分かる・できる力		表現力		向上心	思いやり
	収穫祭を企画、運営することを通して、収穫祭には農業の大切さ、伝統としてつなげる大切さ、作物への感謝があることを理解している。		収穫祭を企画、運営することで、農業の大切さ、伝統としてつなげる大切さ、作物への感謝を出店や動画、映像や劇化など伝えたい内容に即した方法で伝えている。		よりよい収穫祭にするために、自ら工夫し、企画、運営しようとしている。	収穫祭を通して、友だちと協力したり、お客さんを楽しませたりしながら、お互いを大切にしようとしている。
小単元における評価規準	1	① 祭について調べ、その目的や内容などを理解することができている。				
	2	② 農業体験や収穫祭にこめられた様々な思いをもとに、伝えたいことを理解している。	① 相手意識を持ち祭の内容を決め、それに合った表現方法を考え、祭の準備をすることができている。	① 少しでも分かりやすく伝えるために表現方法を工夫しようとしている。	① 友だちと協力しながら、表現内容や方法を考え、用意しようとしている。	
	3		② 祭を通して、伝えたいことに適した方法で分かりやすく伝えている。		② 友だちと関わりながら、祭を楽しみ、実行しようとしている。	
	4	③ 収穫祭を終えて、農業の大切さ、伝統として引き継いでいくこと、作物への感謝を理解し			② これからも熊三米が続くように四年生へ伝えようとしている。	

		ている。		
--	--	------	--	--

7 本単元で育成を目指す資質・能力のルーブリック

		A	B	Bに到達させるための手立て
分かる・できる力	①	作物への感謝、人々のつながりを通して、伝統として続いている農業を大切にしていけないといけないことを理解している。	農業の大変さや大切さを知り、伝統としてこれからも守っていくものだと理解している。	自分たちの振り返りシートをもとに体験したことを想起させて、どんなことが大切か、大変だったかを書かせていく。
表現力	②	祭の中で、相手を意識して、伝えたいことに適した出店や動画などを使い、意図が分かりやすい表現をしている。	伝えたいことに合わせて、出店や動画などを使って自分の考えを表現している。	何をどんな方法で伝えるか明確にするために、一緒に話をしながら考えを整理する。
向上心	③	少しでも分かりやすく伝えるために表現方法や内容を工夫している。	分かりやすく伝えようとして内容や表現を考えている。	相手意識を持たせることで、どうやったら分かりやすくなるかを考える。
思いやり	①	友だちと協力しながら、表現内容や方法を考え、祭の準備に向けて取り組んでいる。	友だちと協力して祭の準備をしている。	一緒に祭の準備をするように声をかけて、役を任せるようにする。

8 単元の構成



9 指導計画 (全20時間)

小単元名(時間)	学習活動	他教科との関連	評価基準	評価方法
1. 収穫祭を調べよう(4)	<ul style="list-style-type: none"> 祭について知っていることや体験したことなどを話し合う。 自分たちがしようとしていた収穫祭と調べてきた収穫祭を比較する。 収穫祭をやるうえで大切にしたいことを決める。 	社会科 「米作りのさかな地域」	分①★ (知・技)	発言、行動観察、ワークシート
2. 収穫祭の準備をしよう(10) 【本時5/10】	<ul style="list-style-type: none"> 収穫祭のテーマを決める。 一年間の農業暦を作る。 収穫祭の名前を決める。 収穫祭の内容、方法を決める。 内容を精選する。 それぞれのグループで準備を始める。 友だちと協力しながら祭の準備をする。 	道徳科 「心のレシーブ」	表①(思・判・表) 分②(知・技) 向①★(態) 思②★(態)	発言、作品 発言、行動観察
3. 収穫祭をしよう(4)	<ul style="list-style-type: none"> プレ祭を行い、お互いに見せ合う。 友だちからの感想を聞きながら、本番に向けて内容を練り直す。 参観日にお客さん(保護者)を招いて、祭を実行する。 他学年へ向けて収穫祭をする。 	学級活動 「収穫祭をしよう」	表②★ (思・判・表) 思②(態)	発言、行動観察、ワークシート 発言、行動観察、ワークシート

5. 収穫祭を振り返ろう(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭を振り返り、大切だと思ったことをまとめる。 ・収穫祭を通して、友だちの良さやがんばっていたことなどを発表し合う。 		向②(態)分③★(知・技)	ート 発言、ワークシート 発言、行動観察
-----------------	---	--	---------------	----------------------------

10 本時の展開(本時8/20)

(1) 本時の目標

収穫祭のテーマをもとに、伝えたい内容をどのような方法で、どのような意図で伝えと分かりやすいかを話し合うことで、収穫祭のお店の内容を精選することができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点(・) 評価の視点(☆)
導入	1 前時までの振り返りをする。 2 めあてを確認する	○前の時間にみんなから出た収穫祭のテーマや名前を見てみましょう。 ・感謝 ・伝統 ・つながり ○招待するお客さんは、保護者、四年生、織田さんでした。それでは、どんなお店にしたらいいのでしょうか? <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 収穫祭のお店の内容を決めよう。 </div>	
展開	3 個人でテーマに応じたお店の内容を考え、その後全体で話し合う。 4 グループごとにお店の内容を話し合い、表にまとめる。	○どんなお店があるといいですか。 ・お米を渡すお店があった方がよい。 ・わらで作ったおもちゃを渡すお店があった方がよい。 ・育てた野菜を紹介するお店 ・野菜を使って作った料理を紹介するお店 ○それぞれのお店では、どんな方法でしたらいいのだろうか。また理由も書いてみましょう。 ・お客さんにお米と一緒に育てた時の様子を書いて渡せばいい。 ・料理のレシピを渡せばいい。作物への感謝を持てるから。 ・料理の写真があるから、それを渡せばいい。きっと作物への感謝をもてると思うよ。分かりやすくもなる。 ・学習発表参観日のように、劇をして米作りの様子を伝えたらいい。そうすれば、人とのつながりや大変さも伝えられる。 ・漫才コーナーを作って、伝えたらいい。そうすれば、伝統や農業への思いを楽しく伝えられるから。 ・わらが残っているから、それを使って何か作ればいい。そうすれば、伝統も伝えられ	・クラゲチャートを使うことで、テーマを意識させながら考えるようにする。 ・一人一人が根拠をもって話し合いができるようにする。 ・マトリクス表を使いながら整理していく。 ☆自分たちが考えた内容だけではなく、新しい考えを取り入れて考えを書いている。 【分②分かる・できる。

	<p>5 お店の全体の数を制限することで、お店の数と内容を精選していく。</p> <p>6 米の消費量などのグラフを提示して、もっと何かできないかを考える。</p>	<p>るから。 ○すべてのお店をすることができるかな？ ・似ているお店は一つに合体しよう。 ・目的が同じようなお店も一つにしていこう。 ・ただ楽しいというのはテーマに合わないからしない方がいい。</p> <p>○社会科で学習した日本の課題を何とか収穫祭で伝えることができないかな？収穫祭のテーマとも関わってこないだろうか。 ・米をもっと食べてもらうようなアピールも伝統には必要だ。 ・米を作る人も減っている。伝統がなくなってしまう。 ・食料の食べ残しの問題も何とかできないか</p>	<p>・制限を加えることで、お店の内容や目的を明確にさせる。</p> <p>・収穫祭のテーマだけではなく、社会科で学習した課題も加えることで視野を広げて考えさせる。</p>
<p>自分たちの収穫祭に、米作りや農業の課題なども入れると、さらにテーマに合ったような収穫祭になりそうだ。</p>			
終末	7 本時の振り返りをする。	○テーマに合ったような収穫祭を考えることはできましたか。	ワークシート

11 板書計画

収穫祭のお店の内容を決めることができる

感謝	感謝・伝統・つながる ・お米を渡すお店 ・おもちゃを渡すお店 ・育てた野菜を紹介するお店 ・野菜を使って作った料理を紹介するお店	お店	目的	内容	方法
つながる		米			
伝統		野菜			
		おもちゃ			

自分たちの収穫祭に、米作りや農業の課題なども入れると、さらにテーマに合ったような収穫祭になりそうだ。